スマイル　天神

思いやりのある子・進んで学ぶ子
明るくたくましい子

天神小学校
学校だよりNo.１６
平成 30 年 8 月 9 日
発行者　蒲川法子

県民祈りの日・・・

７３年前の８月９日１１時２分、長崎に原子爆弾が落とされました。この原子爆弾投下により多くの尊い命が奪われました。（１９４５年１２月末までの推定で、死者７３，８８４人、負傷者７４，９０９人）７３年経った今でも病に苦しむ方々がおられます。当時、城山国民学校の５年生だった宮田美千子さんのお話を紹介いたします。

８月９日朝、近くに住む６年生の久松くまさんの家に妹と出かけました。とても暑い日だったので家じゅうの窓を開けて３人で勉強。やがて縁側から自転車に乗った父の姿が見えたので「お父さんが来たから帰るね。」と玄関の方へ２，３歩進んだ時、くまちゃんが「あっ。飛行機が来た。」と言って縁側に出ました。

オレンジ色のまんまるな月のような光を見た瞬間から何も覚えていません。誰かがよぶ声で気が付くと、まっ暗な場所にとじこめられていて何が何だか分かりません。体を動かすと土や砂がバラバラと落ちてきます。崩れた家の下じきになっていたのです。

くまちゃんのお兄さんが助け出してくれました。幸運なことに、折れたはりの下にできた空間に入りこんで、けがもありませんでした。妹も無事でした。

後から聞いた話ですが、くまちゃんは縁側に出て行ったことで、まともに熱線を浴びて全身にやけどを負い、その日の夜に亡くなったそうです。

外にいた父も首に大きな傷を負い、静脈が切れる寸前でした。背中にささったたくさんのガラスの破片を手でぬいてあげながら１２３片まで数えましたが、それ以上ありました。まる一日意識を失っていた父は、目が覚めると実家が心配だからわたしについてくるように言いました。

建物はなく、目につくのは黒く固まった無数の死体。途中、線路の上を歩きました。目玉が飛び出た馬、はげしくもえるガスタンクの光景をよく覚えています。・・・

宮田さんはあの時、縁側に出ていたなら・・・時間や位置の差で違う結果になっていたかもしれない、とおっしゃっています。また、けがも病気もしなかった自分が原爆のことを語るのは申しわけないという気持ちがあったそうです。しかし被爆者がへっていく中、たくさんの国に核兵器がある現状を見て、原爆のことを世界に伝えていかなくてはならないと思うようになったそうです。

今日の平和集会は、子どもたち有志で司会進行から長崎原爆に関する紙芝居「ひとりぼっち」の読み聞かせまで、事前に準備をし、本番も立派に行うことができました。また、平和の歌「花でかざって」を全校で合唱し、各教室で１１時２分に黙祷を捧げました。今後も、平和な世界を築いていくために自分たちができることを考えさせていきたいと思います。

放課後子ども教室

８月７日、体験型の放課後子ども教室（化学実験）が開催されました。講師は佐世保高専の西口先生、鋳造に関わる内容で低学年の子どもたちにも楽しく取り組める、「指のレプリカ作り」を教えていただきました。また、液体窒素の実験等も見せていただき、子どもたちも目を輝かせて見ていました。理科好きな子どもが増えることでしょう。お世話いただいた皆様、ありがとうございました。